

## “日本モンキーセンター”見学会開催

2014年12月6日(土)に日本モンキーセンターに会員11名、会員家族10名の計22名で自主勉強会として企業訪問いたしました。日本モンキーセンターは、サル類の総合的研究、野生ニホンザルの保護などを目的に、1956年(昭和31年)に設立された、文部科学省所管の公益財団法人です。また、2014年には日本モンキーセンターはモンキーパークとの分離化が行われ、公益財団法人となりました。

当日のスケジュールは以下の通りです。  
 10:00~11:30 施設紹介・研究内容の紹介  
 11:40~12:00 スポットガイド・飼育員の方による紹介  
 12:10~15:00 各自昼食・施設自由見学

研究内容の紹介では、アフリカでのチンパンジーの研究のお話を聞くことができました。ヒト科に分類されるチンパンジーは、群れや地域により文化(例:道具使用)が異なっており、結婚などによりひろがっていくことなど興味深い内容でした。当日は雪もちらつく天候での開催となりましたが、参加者は元気に屋内・屋外の見学を行いました。また、来年も家族参

加型のイベントを開催予定ですので、皆様是非ご参加ください。

(ITC中部 木原 光章)



モンキーセンター見学会の様子

## 賀詞交換会開催

2015年1月17日(土)ITC中部ブランドデザイン委員会主催の「平成27年ITC中部新年賀詞交歓会」を開催しました。今回が4回目の開催となります。今年はPM1:30からの開始と例年のディナータイムからランチタイムへと変更させていただきました。お昼から飲み始めるとどのくらい飲むことになるのだろうと期待と不安がよぎる中、和澤理事長の乾杯から始まり、美味しいお酒と料理を楽しみながら名刺交換や異業種間の交流を深めていただきました。今回は29名の方にご参加いただき、その中でも初めて賀詞交歓会に参加された方を中心にアピールタイムに突入です。和気藹々とした雰囲気の中でご自身または所属する団体のアピールをしていただきました。そして一番のメインイベント、豪華(?)景品が当たるビンゴ大会の開始です。今年の主な景品は、日本酒一升、お宝鑑定に出せそうな焼き物、三重の有名な逸品、国民的キャラ妖怪ウォッチのグッズなど30点ほどを準備いたしました。皆様に盛り上がりがあったのではないかと思います。中締めは磯部副理事長より御挨拶&一丁締めをいただきました。ブランドデザイン委員では来年も更に盛り上がるよう工夫した賀詞交歓会を開催させていただきたく予定です。

す。皆様の参加をお待ちしております。  
 (ITC中部 ブランドデザイン委員会 堀 哲也)



賀詞交換会の様子

## 事務局だより

2014年4月に消費税が5%から8%になり、お店で買い物をする時に思った以上にお金を払わないといけないときに吃驚する今日この頃です。何せ、今まで税込みで価格表示されていた価格が、税別で表示されるようになったみたいですから…。ついつい消費税を掛けるのを忘れてしまいます。

事務局便りを書こうとパソコンに向かい、色々と考えても全く筆(キータイピング)が進まず、自分がどんな仕事をしたいのかを考えていたら、「進化する情報技術の恩恵を全ての中小企業へ」というフレーズが頭に浮かびました。あ！と思った瞬間でした。自分のコンセプト、価値感を一言で伝える技術は、とても大切な技術です。所謂、コピーライティングという技術です。この様なIT以外のス

キルは今後ますます重要になることだと思います。パソコンは今や誰でも簡単に扱えるツールになっています。中小企業であれば、IT部署がなくても社長か社内の誰かが一生懸命にツールの使い方を勉強して、今日も業績アップの為に知恵を絞り出し、汗をかいています。そんな中小企業の担当者・経営者のパートナーとなるのが、将にITコーディネータという仕事ではないかと、改めて思います。パートナーとして業績アップにひたすら貢献することが、クライアントへの恩返しだと思います。手段はいくらでもあります。大切なのは「何のために」という根本的なところだと改めて痛感します。

(ITC中部事務局 山本 健太)

NPO・ITC中部広報誌第24号 平成27年3月31日 発行

発行:NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6(NSC内))

発行責任者:NPO・ITC中部 理事長 和澤 功 編集責任者:NPO・ITC中部 広報委員長 吉田 信人

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)

NPO・ITC中部 広報誌

Vol.24

# 架け橋

非特定営利活動法人  
ITC中部

<http://www.itc-chubu.jp/>

## 活躍する女性ITC



## 目次

ブランドハプスタンス  
なキャリアの歩み方

1

人の縁とは不思議な  
もので・・・

2

悩めるITコーディ  
ネータの方へ

3

第17回架け橋会  
ゴルフコンペ

3

“日本モンキーセン  
ター”見学会開催

4

賀詞交換会開催

4

事務局だより

4

## ブランドハプスタンスなキャリアの歩み方

ITコーディネータの資格取得をした頃は、前職の会社役員として、ウェブのコンテンツやアプリケーションをつくる仕事をしていました。つくるといってもポジションは企画営業。お客様のご要望をお聞きして、企画を立て、社内のシステム部門の人間と詳細を詰めてシステムを構築し、コンテンツを制作するという仕事です。お客様のご要望を的確につかんで企画に落とし込み、お客様に喜んでいただく瞬間は嬉しかったです。でも、頭の中のどこかで、ここはずっといいところではないという感覚もありました。

もともと私は中小企業診断士を取得していたため、ジャパンブランド事業や地域資源活用、経営革新の支援など中小企業や団体等の事業計画策定や実施支援の方が専門でした。でありながらも、気になるのは、戦略や計画よりも、そこに関わる「人」のモチベーションで、「新三方原研究会」なる研究会を発足させ、近江商人の「三方よし」の原理を現代の中小企業に反映させるには…?といった議論を交わしたりしてきました。

振り返ると、会社の役員をやらせていただきながら、中小企業診断士として活動し、人のモチベーションの研究をするという3足のわらじを履いてきたわけですが、さすがにこれでは身がもたない、昨年一念発起。コンサルタントとして独立を考えたところ、人のモチベーションや企業経営に密接に関わる創業支援の仕事が天から降ってきて、はからずも転職をすることになりました。仕事は創業支援コーディネータ。折しも全国的な創業支援ブームの盛り上がりなかで、浜松市の開業数を年間100件プラスするというミッションに取り組むことになりました。

ところで最近はキャリアカウンセラーやキャリアコンサルタントといったキャリア支援の資格に人気が集まっています。私も中小企業診断士を取得した後に、やはり「人」にフォーカスした支援が必要と考えてキャリアカウンセラーを取得したのですが、その理論はほとんどアメリカ発のものをベースにしています。なかでもキャリアカウンセラーに人気があるのがクルンボルツの「計画された偶発性理論(ブランドハプスタンス理論)」。キャリアの方向性は自分が計画したからといってその通り実現するものではなく、偶発的に起こる出来事を自分の味方につけることで、進みたい方向に進むことができるという理論です。

クルンボルツ博士によると、そうなるために必要なのは、好奇心、柔軟性、行動力…。何事にも興味をもって、起こったことに対して柔軟に考え、行動すること。私がここに付け加えたいのは、自分の内なる声に耳を澄ませることです。自



村木 則予 さん

分は一体どの方向に進みたいのか。他人から与えられた枠の中で暮らしている人には、自分の声が聞こえません。そこに自分の声があることすら気づかない。これではせっかくの人生なのに、その人らしく送れないということにもなりかねません。

もし今、自分の仕事の仕方や生き方に積然としないものを感じている方がいらっしゃったら、少し立ち止まって、自分の本当の声に耳を澄ませてみるのもよいかと思えます。その時に大切なのは今までの自分を否定しないこと。身につけてきたスキルや人脈は必ず新しい生き方に役立ちますし、ハイブリッド、トリブリッド、ヘテロブリッドであることが、その人の独自性、ユニークさを際立たせることとなります。経営戦略的に見てもキャリア戦略的に見ても、単一のスキルや経験よりも、多様性を取り込んだ融合体の方がずっと魅力的です。また因果関係がわかりにくいので、模倣されにくいというメリットもあります。

一念発起し、はからずも昨年秋に転職してからも、さらに新しい出来事が私の周囲に起こっています。その最たるものは、SHIENアカデミーの発足です。静岡大学大学院の館岡康雄教授が提唱する「SHIEN学」の魅力にとりつかれ、この新しい学問に則った人材育成の組織づくりに関わらせていただいています。ますます複雑化、グローバル化する世の中で、アメリカ型の経営理論では解決できない問題の解決に、日本的感性、美学で取り組む21世紀の科学、それがSHIEN学です。既存のメソッドやグループと融合をはかりつつ、新しい価値観を少しずつ広めていければと思っています。

(IT静岡 村木則予)

## 人の縁とは不思議なもので・・・

ご存じでしたか？女性ITCは全国で約300名、割合はITC全体の5%ほどしかおりません。日頃からIT業界は男性社会だと感じていましたがITCも同様です。少ないからこそ、チャンスもある。今回もお声をかけていただき感謝致します。

### 【遠赤青汁の仕事】

遠赤青汁株式会社は青汁を中心とした健康食品を製造、販売しています。青汁の素材となる緑黄色野菜ケールを愛媛県で有機栽培し、加工から販売までを一貫して自社で行います。全国有名百貨店で催事販売を行い、電話やインターネットを利用した通信販売、その加工技術を生かしたOEM製造、卸販売など幅広い販売チャネルを保有しています。海外への販売強化にも積極的で、香港・シンガポール・台湾などで販売を行っています。香港で主催する「四国物産展」は、今年で6年目を迎えました。また、昨年9月には独立行政法人国際協力機構（JICA）の「BOPビジネス促進事業」の採択を受け、インドネシアの貧困地域で農業ビジネスを定着させ、現地住民の生活向上に貢献する取り組みもスタートしました。

有機JAS認証の申請、プライバシーマークの更新、大手企業との取引、海外とのやり取りに欠かせないのがIT・インターネットの活用です。トレーサビリティや在庫・製造・出荷データ、顧客情報の管理など、取引先の増加に伴い業務は年々複雑化。IT化整備が急務となり、CIOとして私が取り組む事になりました。

### 【ITコーディネータとの出会い】

平成18年度IT経営百選「最優秀賞」を受賞したのをきっかけに、IT経営実践企業として注目を集め、「IT経営について」先進事例として社員の私が講演をするようになりました。しかし経営の視点もなく社員の想いだけでお話ししても、本来の意味がお伝えできません。そんな時、以前からご指導いただいていた支援機関の方からITC取得を勧められました。PGLに出会い、研修を受ける中で、会社の良さ、足りないところが理解できるようになりました。2009年にITCを取得し、改めてIT化に取り組んだ結果2010年に「全国商工会連合会会長賞」を受賞しました。

実は、私がITCになろうと思った一因にITC中部のみなさんが関係しています。2008年にITC愛媛を訪ねて松山に研修旅行に来ていただきました。その際、「ITCに求めること」と題してお話をさせていただきました。ユーザーの率直な意見とはいえ、結構厳しい事を言いました。今考えると顔から火が出そうです。自分でも迷いがあり、どうしたら会社を良く出来るのかと悩んでいた時期でしたので、その想いもすべてぶつけた形でした。その節はお世話になりました。

人の縁とは不思議なもので、そのおかげで印象深く思っただき、今でもこうして交流させていただいています。あの時あの出会いがあったからこそ、ITCになることが出来ました。皆様との出会いに感謝です。



渡部 一恵 さん

### 【女性が不利は大間違い】

第二次安倍改造内閣で「全ての女性がその生き方に自信と誇りを持ち、活躍できる社会をつくるため」として、女性支援担当相が生まれました。その影響もあってか、女性の活躍に大いに注目が集まっています。私も企業のIT推進を中心的に行う女性社員として、話をさせていただく機会も増え、年末にも社長さんばかりの勉強会で講演させていただきました。その際「まあ、おねえちゃんも頑張りや」と年配の社長さんから声をかけられました。「おねえちゃんって・・・」。以前の私なら馬鹿にされたと憤慨していたでしょう。でも、今は不思議と気にならなくなっています。私の何が変わったのでしょうか。

ITCになって初めて専門家派遣に動向させていただいた際には、支援先の社長さんが3回目の訪問まで一回も私を見て話してくれませんでした。3回目に何が？実は3回目訪問前日の新聞に、私が「中小企業庁長官賞」を受賞した記事が載ったのです。「すごい人が来てくれている」と、その後はスムーズに話をさせていただけるようになりました。あまりの変化にその頃は、女性は不利だと愚痴りITC同期の前で涙したこともありましたが、女性は泣くからダメなんです（笑）

以前は自分が女性だから馬鹿にされる、相手にされないと考えていました。しかし、それは大きな勘違いでした。頼れる雰囲気さえ持っていない、自信が無い人の言葉など、相手の耳には届きません。本当に相手のことを思い、考え、時には厳しく意見するくらいの熱さがないと、社長さんの想いにも応えられないし、人は動きません。

ITCになって本当に人生が変わったと思います。自分の枠を押し広げながら成長出来るなど、想像もしていませんでした。出会いがあり、縁が人を結ぶ。ITCもひとつのチームです。これからもご指導よろしくお願ひします。ありがとうございました。

（ITC愛媛 渡部一恵）

## 悩めるITコーディネータの方へ

今年、2015年の5月で独立開業して10周年を迎えます。これを機にこれまでの10年間を振り返り、今後の10年について考える良い機会をいただいたと思っています。そろそろ次の世代への橋渡しをする時期になったかとも思います。特に女性のITコーディネータの方には益々がんばってもらいたいと思っています。

2005年3月31日付で、長年勤めておりましたNTTコムウェア（NTTグループの情報システム会社）を退職しました。電電公社の時代に入社し、NTTでは、教育施設、監査部門、企画部門、情報システム部門、ソフトウェア会社等と色々な職場でいろいろの経験を積むことができました。福利厚生も充実しており、子供が小さい時も、職場の上司、同僚、後輩の理解もあり仕事を続けることができました。しかし、一番の感謝は、健康に育ってくれた子供と育児と家事をいつも手伝ってくれた主人と両親です。周囲の理解がないとなかなか仕事を続けていくことはできなかったと思います。ITコーディネータの資格を取得したのは、NTTコムウェアに在職中のときで、NTTグループ会社でないお客様のシステムを構築したことが動機となりました。このときは、独立開業は考えていなくて、新しい分野（私にとっては経営）に興味を持ったことでした。子育てを終えて、70歳まで働ける仕事をしたいと思ったのが独立開業の動機でしたが、ITコーディネータの資格が後押ししてくれたと思います。『たった一度の人生だから』という言葉で上司や周囲の人々に手厚い環境の職場から送り出していただきました。

現在は、株式会社Career-bridgeの取締役とISMS（ISO/IEC 27001）、QMS（ISO 9001）、STAR（クラウドサービス）認証の審査員やコンサルタント、一般社団法人の監事などを行っています。審査員の仕事は、季節により繁忙期と閑散期がありますが、現在所属している審査登録会社には、76歳で現役の審査員がおられ、海外の審査や新しい規格の審査では、必ず名前が挙げられます。実力があれば幾つまでも働ける仕事を見つけたことは大きな成果でした。審査では、経営者の方にお会いし直接お話しを伺う機会があります。ITコーディネータとしては、あまり成果を挙げていないように思いましたが、改訂されたISOマネジメントシステム（ISO/IEC 27001は、2013年に改訂）は、経営と深く結びついており、ITCプロセスが大いに役に立っていると感じる今日この頃です。また、

色々な業種の色々な方々とお会いする機会があり、広い世の中に出てみてよかったですと実感しています。世の中は、少子高齢化で女性の役割が益々重要な時代になってきました。最近では、活躍されている女性も多くいらしゃいますし、国の制度を含め、社会全体が女性の味方になってくれそうな雰囲気もありますが、まだまだ女性（特に子育て中の方）には厳しい世の中かと思ひます。人は、子供や親の介護など仕事より私事を優先しなければならない時もあります。それを女性に求められることも多いかと思ひますし、女性は、男性に比べて、育児休職や介護休暇が取り易いかもしれませんが、こんな時は、仕事から離れて、地域の活動などに参加するチャンスかもしれません。私は、育児休職を3年間取得し、2年間時間短縮で勤務して、仕事面ではマイナスだったかもしれませんが、会社にはわからないことも経験できました。また、退職する時には、男性社員から羨ましがられたものでした。

人生は、山あり谷ありの積分とと思っています。長い目では『ToBe』も必要かもしれませんが、『ありのまま』で生きていってもよいのではないのでしょうか。今、一番大切なことを見極めてそれを楽しむことができれば、本当に素晴らしい人生になると思ひます。見過ごしてしまったチャンスも多かったかと思ひますが、毎日を気楽に生きていくこともできたことも有難かったと思ひます。もう一度、同じチャンスが来ても同じ選択をしたと思ひます。

もし、家庭と仕事の両立や将来のことでお悩みの方がいらっしゃったら、ご連絡ください。楽しくお話ししましょう。今回は、これまでの10年間を振り返り、今後の10年について考える良い機会をいただきましたが、これからの10年について考え中です。今後のことを私と一緒に考えませんか？

（ITC中部 山田 眞佐代）



山田 眞佐代 さん

## 第17回架け橋会ゴルフコンペ

2014年10月4日（土）ITC中部広報委員会主催の第17回架け橋会ゴルフコンペが、桑名国際ゴルフ倶楽部で開催されました。当日は、あいにく台風18号の影響で、風の強い曇りの日となりましたが、常連の方々を中心に参加者9名で、楽しくプレーすることができました。

架け橋会ゴルフコンペは、毎回ダブルペリア方式で実施していますので、あがってみたいとわからないという楽しみがあります。ベスグロは、矢口さんと81、優勝は、グロス94.0/ネット73.6で、近藤でした。全体の平均スコアは、グロス99.8/ネット78.8という結果で、皆さん、風の強さと戦略性の高いコースに手こずっておられたようですが、平均グロス100を切る凄いいコンペとなりました。

賞品は今回も参加者全員から持ち寄ってもらった品物を成績上位者から順に好きなものを選んで頂きました。賞品には、地方や海外産のお酒がたくさん持ち込まれ、皆さんには大変満足して頂くことができました。今後も参加者全員による賞品の持ち寄りを続けていきたいと思ひます。

架け橋会ゴルフコンペは、ゴルフを通じてITC中部の親睦を図る目的で開催しており、スコアに拘らず、和やかな雰囲気

で、是非多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（ITC中部 近藤 慈伸）



第17回架け橋会ゴルフコンペ  
（桑名国際ゴルフ倶楽部）